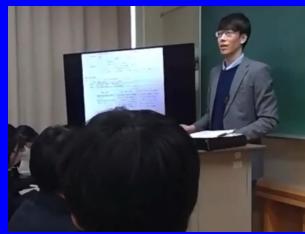


北海道教育委員会「S-TEAM教育推進事業」
令和6年度（2024年度）授業研究セミナー

道東・外国語 実施報告



令和6年11月5日（火）、北海道鹿追高等学校を会場に「外国語科における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）」「ICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」をテーマとして、東京学芸大学先端教育人材育成推進機構高校探究プロジェクトとの連携のもと、外国語（英語）科の授業研究セミナーを開催しました。参集22名、オンライン7名（管外を含む）の計29名の参加がありました。本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

学習指導案リンク：



実施状況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭3名、道教委指導主事3名、東京学芸大学教職大学院教授 藤野智子 様、東京学芸大学先端教育人材育成推進機構准教授 藤村祐子 様、玉川大学大学院教授 星野あゆみ 様 から成る「授業研究チーム」を編制し、オンライン学習指導案検討会を複数回実施しました。授業づくりの目線合わせとして、「プロセスが学びになる」「多様な価値観を知る」こととし、単純な「A or B」型ではなく、生徒がジレンマのある問題に対して他者と意見を交流しながら、単元全体を通して考え、自身の思考の変容を言語化させていくことをねらいとしました。

【研究授業】北海道鹿追高等学校 佐藤暢紀 教諭

「英語コミュニケーションⅠ」において、単元の目標を「環境問題に関する英文を読んだり聞いたりした内容を基に、情報や考えなどを伝え合うことができる。」、本時の目標を「教科書本文や関連する英文の内容を踏まえ、問い合わせ（※単元を貫く問い合わせ）に対する自分の学びの深まりや考え方の変化などについて、英語で伝え合うことができる。」として、研究授業を行いました。

本授業は、計7時間配当の6時間目であり、単元を貫く問い合わせ“What do you think about plastic problems?”に対し、生徒は、それまでに教科書以外の英文（補助教材）も活用して多角的にプラスチック問題について考え、アウトプットする機会を繰り返ししながら、最終的に自身の考えを整理し、ペアで意見を伝え合う活動となりました。



教科書がプラスチックの問題点や脱プラスチックの取組等の概要を伝えているのに加え、本時までに、Small Talk（会話活動）として、“What do you think about paper straws?” “What do you think about having to pay for plastic bags ?” “What

do you think about living completely without plastics?”という問い合わせ、本時においては、“What do you think about the plastic packaging?”という問い合わせを設定した上で、生徒は教科書以外の英文（補助教材）を読み、繰り返し単元を貫く問い合わせに対して考え方を深めていくよう、授業がデザインされていました。

生徒は、間違いを恐れない発話をはじめ、相手の発話へのリアクションや内容に関する質問等のやり取りなど、非常に積極的に英語によるコミュニケーションを行っており、参観者としては、1学年の授業であることに驚くほどでした。日々の授業のSmall Talk（帯活動）や教科書英文のRetellingを通して、情報や考えなどを伝え合うことが習慣化されていたことと、今回の研究授業を通して、授業者が生徒の思考を揺さぶりながら、生徒が自身の思考の変容を言語化するプロセスに焦点を当てたことが、生徒のパフォーマンスに好影響を与えたものと考えられます。



【研究協議】「多様な生徒たちが『探究的に学ぶ』ことを支えるよりよい授業とは」

東京学芸大学教職大学院（大学院教育学研究科）藤野智子教授を講師として、授業研究の前には「授業研究の視点」について、授業研究の後には「探究的な学び」「多様な生徒たちの学び」について、ワークショップ形式による研究協議を行いました。

研究授業の前に、コルトハーヘンの「ALACT モデル」（省察プロセス）から、「8つの窓」という、生徒と教師のそれぞれの“Want” “Do” “Think” “Feel” の視点による授業研究の手法を教示いただいたうえで、研究授業の後の研究協議で振り返りを行いました。また、個別最適な学習環境や探究的な学びの在り方を協議することを通して、自校の学校教育目標を達成するための外国語科の果たす役割について考える機会となりました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 知っているつもりでいたことも実際には自分で活かせていないという気づきもあった。
- 普段立ち止まって考える余裕のないことを、他の参加者と考えを共有することができ、新しい考えが生まれたと思う。
- 授業で育成したい、資質能力を今一度考え、授業や単元計画の再検討を行っていきたい。
- 教科書だけの側面から話し合いなどを行わせるのではなく、教科書とは反対の意見や事実が書いてある記事などを活用し、コントロバーシャルなやり取りをさせるというのは是非参考にしたいと思った。

アンケートの結果（一部）】

- 1 教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
 - ・おおいに深まった 61% •深まったく 35%
- 2 「ICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」に関する理解は深まりましたか。
 - ・おおいに深まったく 35% •深まったく 57%